ハンドマイク街頭演説原稿例　防災の日にあたって

二〇二五年八月三十一日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、九月一日は防災の日です。一九二三年の九月一日に関東大震災が起こったことから、この日に定められました。地震や台風など、自然災害はいつどこで起こるかわかりません。昨年の元日には能登半島地震が起こりました。今年の夏はあちこちで豪雨災害が起こっています。災害への備えと、災害が起こった後の被災者支援に、政府と自治体は全力をあげることが必要ではないでしょうか。必要な予算をしっかり確保し、日ごろから災害対策に本気で取り組むことを、日本共産党は求めます。

　能登半島地震の際には、行政の対応の遅れが大きな問題になりました。この背景には、国が「行政改革」や市町村合併を進めて、公務員を減らしてきたことがあります。国も地方自治体も職員を減らしてきた結果、災害発生などの緊急時に人手が足りず、対応が間に合わない事態が生まれています。国民の命を守るためにも、国は公務員削減の政策を改め、増員して必要な職員を確保する方針に変える必要があるのではないでしょうか。

　ところでみなさん、防災の日の由来となった関東大震災では、地震による建物の倒壊や火事により、多くの方が犠牲になりました。これに加えて、被災地に流れたデマにより、数千人の朝鮮人が軍隊や警察、住民による自警団により命を奪われました。埼玉県が編さんした『新編埼玉県史』でも、関東大震災に関する記事の中に「朝鮮人虐殺問題」という項目を立てて、詳しく述べています。

　ところが今の日本政府は、朝鮮人虐殺の事実を認めていません。政府は「記録が見当たらない」と言い張っていますが、当時の軍隊や警察の記録、裁判記録、住民の証言などがしっかり残っています。見たくないものを「見つからない」ことにしているだけです。事実を認めない政府の態度は、恥ずかしいものではないでしょうか。

　加えて、先の日本が起こした戦争を侵略戦争だと認めない動きや、外国人を差別し排斥しようとする動きと連動して、関東大震災における朝鮮人虐殺を認めない、無かったことにしようとする動きが強まっています。歴史の事実としっかり向き合ってこそ、未来は開けるのではないでしょうか。

　『埼玉県史』は朝鮮人虐殺について、根本的な原因は「根強い民族差別」だったと述べています。このような差別や排外主義が一つの要因となって、戦前の日本は戦争への道を突き進むこととなりました。このような歴史を繰り返すわけにはいかないのではないでしょうか。日本共産党は、世界諸国、諸民族との友好と平和をさらに広げていく立場で、これからも頑張ってまいります。

　自民党の裏金問題を最初に取り上げた、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）